

News&News

第7回

みなと・品川コミュニケーションセミナー 開催報告

10月14日午後7時から開催されました。このセミナーは3月に予定され、震災の影響で延期となっていました。今回、お招きした講師は慶應義塾大学看護医療学部教授の杉本なおみ先生で、「患者さんと医療者のコミュニケーション」と題し、専門であるコミュニケーション学を応用した参加・体験型の内容で行われました。例年開催していた内容とは視点を変えて、患者さんとのコミュニケーションのみならず医療者間であってもコミュニケーションのとり方は医療安全上も重要であるなど、意義深い内容のセミナーでした。



セミナー風景

第19回

医療感染講習会開催のお知らせ

講演 感染症とその防止：最新トピックス
～カテーテル関連感染防止、震災における感染症、今シーズンのインフルエンザ～

講師 山形大学医学部付属病院検査部
部長・准教授 森兼 啓太 先生

平成23年11月11日(金) 午後7時から 1階外来ホール

震災、インフルエンザをテーマに、おなじみの森兼啓太先生を講師にお招きして開催いたします。今年度の流行の予想や感染予防に関する新しい情報などお話しいただく機会です。本格的なインフルエンザの流行の前ですが「備えあれば憂いなし」です。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

第14回

地域医療懇話会・懇親会開催のお知らせ

平成23年11月18日(金)
午後7時から

グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール1階

懇話会は19時から「旭光」、懇親会は20時から隣の「暁光」で行います。

懇話会では正式な演題名は未定ですが、「内視鏡」及び「手外科」に関連した二題を予定しております。

ご多忙のこととは存じますが、年に一度の会でございますので、ぜひご参加くださるよう職員一同お待ち申し上げます。

新任医師の ご紹介

平成23年10月1日付



まさい ひづみ
正井 博文
内科（循環器）医師

東邦大学 平成17年卒
医局 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科



やまぐち むねひろ
山口 宗大
内科（呼吸器）医師

帝京大学 平成20年卒
医局 昭和大学呼吸器・アレルギー内科



しおたに えいじ
塩谷 英司
整形外科医長

昭和大学 平成10年卒
医局 昭和大学医学部整形外科

Contents

医療連携の新しい試み

管理部長 前川 久登

専門外来紹介 vol.2

「ペインクリニック」

麻酔科 部長 斎藤 勇一郎

専門外来紹介 vol.3

「形成外科」

医師 菊池 和希

News&News

●第7回

みなと・品川コミュニケーションセミナー
開催報告

●第19回医療感染講習会
開催のお知らせ

●第14回地域医療懇話会・懇親会
開催のお知らせ

新任医師のご紹介

vol.37
2011.11.1



地域医療・支援センター
地域医療連絡室

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号
TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3440-9570
<http://www.semos.or.jp/tokyo>

病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。

せんぽ東京高輪病院

医療連携の新しい試み

せんぽ東京高輪病院 管理部長

まえかわ ひさと
前川 久登



当院は地域に根ざした病院を目指すことを方針のひとつとしており、これまでにも近隣の病院、診療所の先生方からの診察、検査などのご依頼に対応してまいりました。また、当院からも患者さんの精査、加療をお願いしております。

近隣の医療機関との医療連携の中には企業の診療所の先生方からのご依頼も少なからずあります。品川駅から大崎、五反田駅周辺には数多くの企業があり、たくさんの方が勤務しておられます。品川という地は、古くから交通の要所ですが、近年は品川駅や周辺地区の再開発がすすみ、よりその重要度が増し、多くの企業が進出してきております。それに伴い、同地域の企業診療所の先生方からのご依頼も徐々に増加しております。

今回、地域医療連携の一環として、当院より企業の医務室に医師を非常勤として派遣し、企業診療所の補助をさせていただくこととなりました。以下にその詳細をお話しいたします。

ある程度の規模以上の企業では産業医の先生により、社員の健康管理をしておられます。企業内における診療所は街中にあるクリニックとは診療内容が異なり予防医学に主軸がおかれており、中には大学医局などから医師が派遣されているケースもあり、企業の職員に対してより専門性の高い診療をされている所もあります。しかし、企業内における診療所であり、検査等にはおのずと限界があります。大学病院を受診させるまでもない一次、二次程度の急病の場合や、時間的、地理的な問題で大学病院まで患者さんが行けそうもない場合など、近隣

病院である当院が代わって検査や治療の依頼などを受けてまいりました。

そこで、当院より医師を派遣することにより、当院における診察や検査などがスムーズに行えるのみならず、万が一診療所にて急患が生じた際にもその医師が受け皿となり対応しうると考えました。近隣である当院の利便性、そして地域医療連携室のフットワークの軽さ、そして何より当院の職員である医師が派遣されているため、本来煩雑な作業が極めてスムーズに行えることがメリットとなります。つまり、当院より派遣された医師は診療所にて産業医として診察するだけでなく、各種成人病の管理、そして必要に応じて二次精密検査、加療を含めて当院にて行い、状態が安定した時診療所に戻します。さらには急患などにも対応し、当院と診療所の間で密な医療連携が保たれることが予想できます。

以上のような背景の元、実際に数ヶ月前より品川のある企業に一人の医師が非常勤として派遣されています。社員の定期的な検診などで更なる検査が必要となった際は当院の地域医療連携室に連絡をとり、すぐさま予約を行い、専門とする先生に連絡を取り診察を行うなどの便宜を図っております。幸いにもいまだに救急医療は行われていませんが、診療所の所長、事務方とも気軽に連絡がとれるため、万が一の時にも備える体制はできつつあります。また、当該診療所では投薬、検査などはできないため、当院における医療連携のネットワークを利用して近隣の診療所へ慢性疾患の患者の紹介を行う予定です。

今回は企業内診療所に対する連携の新しい試みについてお話をしましたが、医療連携においては何よりも双方のコミュニケーションが大切と思われます。当院においては今後とも企業内の診療所のみならず、これまでどおり多くの先生方ともさらに密なる連携を図っていく所存でおりますのでよろしくお願ひいたします。

編集後記



まとわりつくような残暑から10月に入りようやく秋の気配を感じます。激しい気温の変化と朝晩の温度差は、体調を維持するにはつらいものがあります。11月を迎えるインフルエンザの季節がやってまいりました。思えば昨年は新型の発生が話題にのぼり感染予防の消毒薬・マスクが店頭から消え、手に入れるのに躍起になっていたのが今から思い出されます。

3月の東日本大震災の後もガソリンやいろいろな物資が不足しました。もう節電は常識になりつつあります。大震災に揺れた2011年もあと二ヶ月弱で終わろうとしています。来年はすべてに「いい」年になりますように願わずにはいられません。

専門外来紹介 vol.2

ペインクリニック

部長 齋藤 勇一郎
麻酔科



平成23年4月よりペインクリニック専門外来を当院で初めて開設させていただきました（木曜午前9時～15時<全患者さん対象>、第2・4土曜10時～12時<会社員対象>）。外来診療スタートにあたり、諸先生方、放射線科、看護部、薬局、事務の方々からのお力添えをいただきましたことにこの場をお借りして御礼申し上げます。

当ペインクリニック外来では通常の神経ブロックの他に、超音波ガイド下の神経ブロックを行っております。頸椎症の治療での神経根ブロックは今までX線透視による方法しかありませんでした。頸部は血管に富み、また肺にも近く針先の繊細な調整が必要な場所です。X線透視では血管は見えず、神経も見えません。つまり、以前の方法では骨格の解剖学的所見のみを頼りに針を操作しなくてはならなかったのです。そのため、血腫による呼吸困難、頸隨損傷、全脊椎麻酔、気胸など、合併症と隣り合わせの治療でした。超音波ガイド下では神経、血管、胸膜などが観察できます。より安全な手技をペインクリニック医諸家は手の内に入れたといえます。針そのものによる合併症の他に、薬液使用量もターゲットを目の当たりにできる超音波ガイド下では減量でき、局所麻酔薬中毒の頻度を減らせ

ます。手術麻酔領域でも、糖尿病性壊疽で抗凝固療法中の心不全の患者さんの足切断術などで坐骨神経ブロックのみで施行に成功しています。他のブロックとしては、主に仙骨硬膜外ブロック、肋間神経ブロック、肩甲上神経ブロック、トリガーポイントブロック、神経根ブロックを行っております。上肢の末梢神経痛に対しては正中神経ブロック、尺骨神経ブロック、橈骨神経ブロックなど、下肢のこむら返りに対しては趾間ブロックが効果的です（脛骨神経と腓骨神経の末梢に注射します）。この夏には畏れ多くも院長先生のお御足にまで注射させていただきました。こむら返りの治療には芍薬甘草湯が有名ですが1回の注射で完治することも多く経験しています。痛みにお悩みの方は是非、お気軽にご受診ください。痛みは気持ちを落ち込ませ、その気持ちは痛みを増幅させます。神経ブロックによって痛みを断ち切る治療をお受けになってはいかがでしょうか。

素敵なスタッフがアロマポットと音楽を用意してお待ちしています。

専門外来紹介 vol.3

形成外科のご紹介

医師 菊池 和希



平成23年9月より「形成外科外来」を開設いたしました（毎週火曜日10時～17時）。

「形成外科」とは、おもに体の表面だけがや病気の治療をする診療科です。体表の生まれつきの異常や変形を治したり、失われた機能や体の一部を新たに作ったりすることができます。身体外表の形および機能を正常化する目的をもつと同時に精神的劣等感を取り去る役目をもっています。

また、健康保険の適応外になりますが、機能的には何の支障がなくとも、容姿、形態が精神的負担をもたらすような場合、美的に形成して負担の除去、軽減をはかることを目的とした「美容外科」および「美容皮膚科」も専門としています。

厳密な意味での「形成外科」は、あくまで異常を正常にするものであり、単なる美容のために治療するものではありません。機能異常が前提ですから、健康保険の適用を受けます。これに対し、「美容外科」は機能的に何の異常もない健康な部位を治療するものです。従って、健康保険の適用外、自由診療となります。これらは本来的にその目的が違う二分野ですが、治療の手技、手法には多くの共通点があります。当院では形成外科としての一般的な医療にとどまらず、美容医療にも積極的に取り組んでおります。

形成外科での近年の医療技術の進歩として、まずは「マイクロサージャリー技術」、「美容皮膚科的治療法」が挙げられます。マイクロサージャリーの進歩は、リンパ浮腫に対するリンパ管吻合術や指尖部再接着など従来困難とされていた手術を可能にし、血管付き脂肪移植、血管付き神経移植、種々の新しい遊離組織移植

超微小血管吻合による指尖部再接着



を実現し、身体の形態的、機能的再建において革新的な治療法を生み出し続けています。

美容医療はいわゆる「病気」に対する治療ではありませんが、現代社会では外貌による精神的ストレスを従来以上に強く感じる人々が増えており、美容医療を受けることによって仕事にもプライベートにもより積極的に自信を持ち、その人本来の魅力や能力を発揮できるようになることがあるのも事実です。近年の美容医療の進歩によって、より確実により安全に、またより低侵襲で美容的改善が得られるようになりました。

当院では週に一回の診察日ではありますが、東京大学形成外科との連携により、様々な症例に取り組んで参ります。どうぞお気軽にご相談下さい。

形成外科関連

[主な取り扱い疾患]

全身の切り傷、擦り傷、やけど、顔面の骨折、粉瘤、巻き爪、皮膚腫瘍、傷跡、ケロイド

美容外科関連

※健康保険は適用されません。

[主な取り扱い疾患]

二重瞼、上眼瞼のたるみ、眼瞼下垂、下眼瞼のたるみ、くぼみ、目の下のクマ、隆鼻術、刺青除去、異物除去、腋臭症、多汗症、ニキビ、しみ、ほくろ、そばかす、あざ、しわ、いぼ、乳輪の黒ずみ、瘦身（肥満治療）、薄毛治療

トレチノイン外用による肝斑治療

